

須江地区火力発電所に 係る要望書

須江地区の環境を守る住民の会
保護者の会

作成：保護者の会 代表 我妻久美子

要 望

**私たち須江地区住民一同は、
2022年2月着工予定の
『須江地区火力発電所』の建設計画に
強く反対の意思を表明します。**

**建設計画における複数の問題点を
次ページより提示いたします。
何卒、お力添えをお願い申し上げます。**

事業計画の概要

項目	内容
事業の名称	G-Bio 石巻須江発電事業
事業の種類	火力発電所設置事業 (宮城県環境影響評価条例第一種事業)
位置	宮城県石巻市須江字瓦山 地内
面積	約81,000㎡ (内、発電事業で改変する面積は約50,000㎡)
原動力の種類	内燃力及び汽力のコンバインドサイクル発電
出力	102,750kW (内燃力979,000kW+汽力4,850kW)
工事着工・運転開始時期	着工2022年2月頃(予定) 運転2025年8月(予定)
燃料使用量/日 年	約500トン/日 約180,000トン/年(20年間の平均値)
輸入先	アフリカ
荷揚港	石巻港(国内の輸入港から内航船で運搬)
月間使用量	約15,000トン/月
燃料輸送量	約700トン/日(月～金)
トレーラー	約33台/日

市議、現市議会議長と事業者の説明不足による圧倒的な不信感

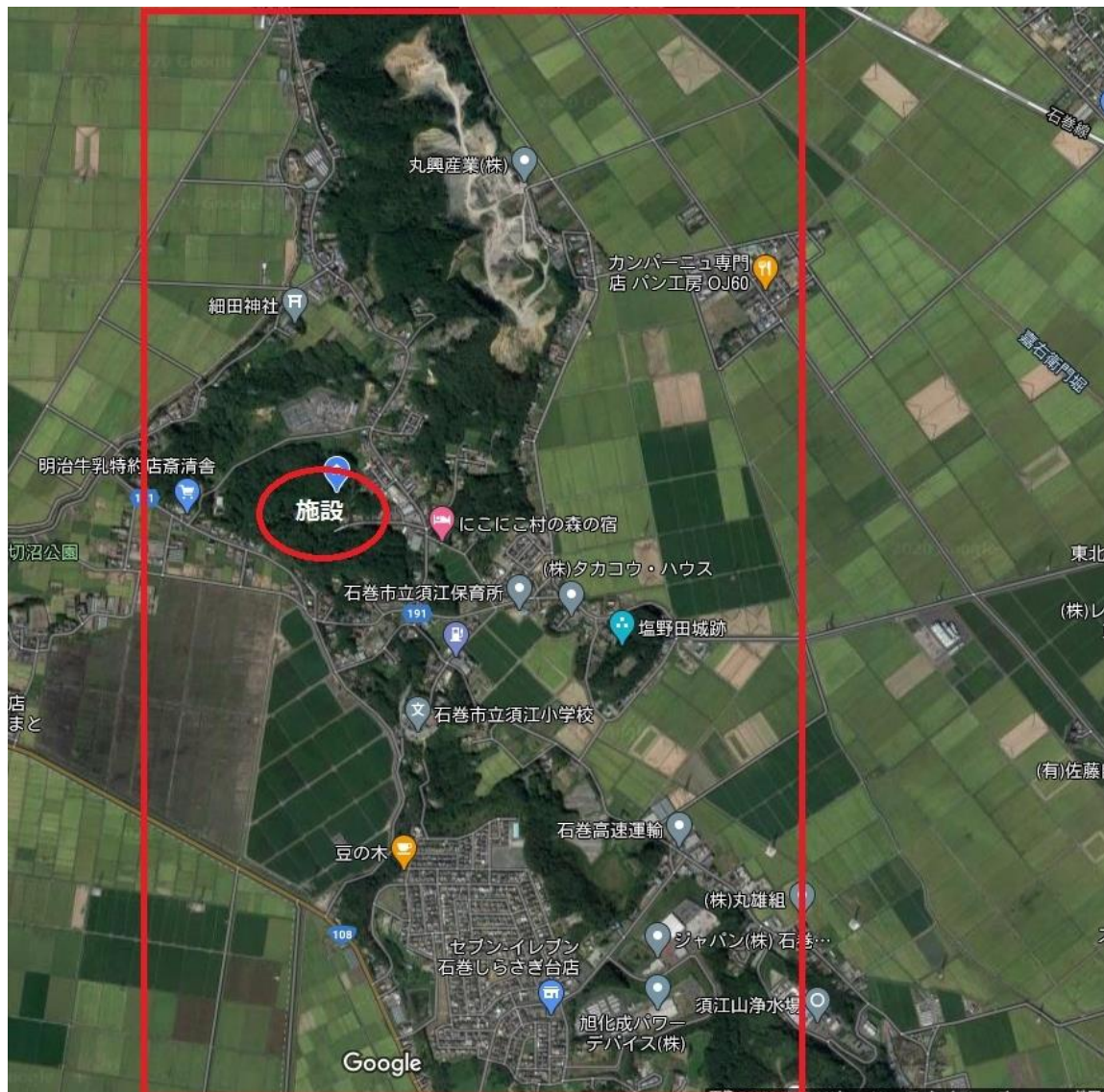
以下、事業者の記録より

2017.01	近藤市議と面談	石巻発電所計画の基本説明。市町、副議長にもお話をし、ご支援の約束をいただく。	
2017.03.07	石巻市長と面談	亀山市長、大森市議会副議長、近藤市議	近藤元市議と現大森議長が「支援の約束」をしているのは、なぜですか！？
2017.05.08	県知事と面談	村井知事	
2017.09.17	第一回地権者様説明会	大森市議会副議長、近藤市議、地権者9名、関連会社	
2017.12.03 2018.02.09 2018.01.10	G-Bio発電所を作る会	大森市議会副議長、近藤市議、地権者代表、関連会社、行政書士1名	住民を無視して勝手に話を進めている
2018.03.28	第一回住民説明会	主催：『液体バイオマス発電を進める会』 当社：参加説明	地権者以外の住民は誰も知らない説明会。当然誰も行かない。
2018.07.09	石巻市副市長と面談	佐藤副市長、大森市議	
2017.12.25～	第1回～第19階石巻定例会議	関連会社6社（当社含む）での定例会議	
2018.08.08	第2階地権者様説明会	主催：『液体バイオマス発電を進める会』 当社：参加説明	
2018.09.02	石巻市と面談	発電所計画地内の赤道払下げの手続きを進める了承を得た。	
2019.01.08	アセス方法書の公告・縦覧	宮城県庁、石巻市役所、東松島市役所（1/8～2/7）	
2019.01.22	アセス方法書の住民説明会	石巻市（1/23@遊楽館、東松島市（1/22@コミュニティーセンター）	十分な告知がされず、住民の参加者は数名。
2019.03.19 2019.04.22 2019.06.03	環境影響評価技術審査会 ①②③	環境アセス方法書について、専門家による審査を受診	
2020.10.31	住民説明会@遊楽館	須江地区に知らせが行きわたらず、知らない人多数！	

地元が須江地区の近藤元市議、大森議長が誘致し、住民に説明のないまま建設しようとしているとしか思えません。こそそと何をしているのですか？

問題点1

住宅地のほぼ中心に位置し、地区全土に影響が及ぶ



敷地面積約81,000㎡
(内、発電事業で改変する面積は約50,000㎡)
※東京ドーム2個分の敷地面積

問題点5

液体火力発電所ですが、燃料が定まっています。

去る10月31日の遊楽館での事業者説明会にて、事業者側から提示された燃料は「G-bio Fuel.P」という燃料でした。しかし、加えて続けられた言葉は「この燃料が確保できない場合には、そのほかの植物油がいろいろありますのでそれを使います」ということでした。植物油を燃やすなら何でもいいたらうという事業者の怠慢がうかがえます。燃料の安定供給も定まっていない状況で、日本一の発電量を掲げる事業として、**あまりにもずさんな事業計画**と言うしかありません。



燃料使用量：500トン/日
↓
20Lドラム缶2500個/日

現在、G-bio Fuel.Pという豆からとれる燃料はFITという固定買取制度の対象になっていません。制度対象になれば発電した電気を高く買い取ってもらえませんが、その場合は違う燃料を使ってくると思っています。

現時点で燃料も決まっておらず、そのため住民はどんな臭いがするのか想像すらできません。事業者は「無臭」という二文字で終わらせますが、稼働してから臭いと訴えても、誰も責任は取ってはくれません。

パーム油が8年半ぶりの高値圏、値上がりし易い食用油価格

小菅 努 | マーケットエッジ株式会社代表取締役/商品アナリスト
11/10(火) 21:23

ツイート シェア ブックマーク



(写真:アフロ)

パーム油が急騰している。マレーシアのMPOCパーム油先物相場は5月の1トン=1,939リンギットをボトムに足元では3,200リンギット台まで急伸し、2012年5月以来となる8年半ぶりの高値を更新している。パーム油は、食用油やバイオディーゼルの利用されており、このまま高騰相場が続くとコーン油や菜種油などの競合品も値上がりし易く、家計にも影響を及ぼし始める可能性がある。

パーム油相場高騰の背景にあるのは、堅調な需要環境に対して十分な供給量を確保できず、在庫のタイト感が強くなっていることだ。マレーシア・パーム油ボード (MPOB) が11月10日に発表した10月末在庫は157万3,450トンとなっているが、これは前年同期の僅か66.9%の水準に留まっている。4月時点では204万4,498トンの在庫が確保されてい

たが、6~7月に続いて10月も大規模な在庫の取り崩しが報告されている。10月末の在庫水準としては、2007年以来となる13年ぶりの低水準である。



(出所) MPOBよりマーケットエッジ作成

需要に関しては、中国やインドを中心に堅調である。世界銀行 (World Bank) は中国について、トランプ政権下の米中対立激化の中で、飼料としての大豆ミールはトウモロコシ、食用としての大豆油はパーム油で代替する戦略を採用していることを報告しているが、需要環境が大きく変わっている。原油安の影響でバイオディーゼルとしては価格の面で厳しい環境に追い込まれているが、新型コロナウイルスのパンデミックの影響を早期に消化したことで、インドや中東の需要環境も底固さを見せている。マレーシア産の10月輸出高は前年同月比2.0%増の167万3,998トンとなっている。これは10月としては2015年以来の高水準である。

一方、異常気象・ラニーニャ現象の影響で生産環境は悪化している。10月のマレーシア産の生産高は前年同月比4.0%減の172万4,420トンに留まっている。これは10月としては2016年以来となる4年ぶりの低水準である。新型コロナウイルスのパンデミックによる労働力不足、流通網の混乱も報告されており、需要と供給とのバランスが歪んでいる。

11月前半の輸出統計では、出荷が落ち込み始めており、在庫が更に大きく取り崩されるリスクは限定されるとの見方が強い。例えばAmspec社によると、11月1~10日のマレーシア産パーム油輸出は10月の同じ時期と比べて17.1%減少している。インドの季節要因 (Diwali祭) に基づく買い付けが一服し、11月はその反動から輸入を抑制する可能性が

社によると、11月1~10日のマレーシア産パーム油輸出は10月の同じ時期と比べて17.1%減少している。インドの季節要因 (Diwali祭) に基づく買い付けが一服し、11月はその反動から輸入を抑制する可能性が高まっている。また欧州などのパンデミック対策で行動規制が強化される中、バイオディーゼルの需要も落ち込み易い。このため、11月には更に急騰地合いが続くリスクが低下している。

しかし、大豆油など植物油相場の高騰傾向が続く一方、ラニーニャ現象とパンデミックによる供給不安は維持されることになり、在庫タイト感の解消・緩和は難しい状態が続く見込み。生産は10月に続いて11月も低迷状態が続くことがほぼ確実視されている。需要が予想以上の底固さを示す、天候不順が更に深刻化するとといった形で在庫の取り崩しが更に進むと、もう一段階の値上がりが進むリスクも抱えた状態が続くことになる。



(出所) Refinitivよりマーケットエッジ作成

ツイート シェア ブックマーク

小菅 努 | マーケットエッジ株式会社代表取締役/商品アナリスト

1976年千葉県生まれ。筑波大学社会学類卒。商品先物会社の営業本部、ニューヨーク事務所駐在、調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社を設立、代表に就任。金融機関、商社、事業法人、メディア向けのレポート配信、講演、執筆などを行う。商品アナリスト・東京商品取引所認定 (貴金属、石油、ゴム、農産物)。コモディティレポートの配信、寄稿、講演等のお問合せは、下記 Official Siteより。

kosuge_tsutomu | official site
マーケットエッジ株式会社

小菅努の最近の記事

ワクチン開発の報道で、原油価格が10%近く急騰 11/9(月) 22:04

食料と競合しないと口酸っぱく言われてきたパーム油は、すでに数年前から価格が高騰してきており、ここにきてさらに値上がり。そして、この影響は植物油全体にまで波及する見込みです。FITでは認定する植物油の種類を増やす見込みですが、燃料の安定供給が見込めない施設の稼働は、その後の廃工場の問題に直結します。

もしも廃工場になったら・・・

不審者の出入りなど

**治安
悪化**



産業廃棄物の不法投棄
生活ごみの不法投棄
衛生面の問題大

**不法
投棄**

廃工場

火災



放火の危険
自然発火の可能性大

**環境
汚染**

燃料が安定供給され
ないだけで稼働停止
に追い込まれる
リスクな施設です



管理不足による害虫の繁殖
動物が住むようになる
朽廃化に伴う倒壊の危険性

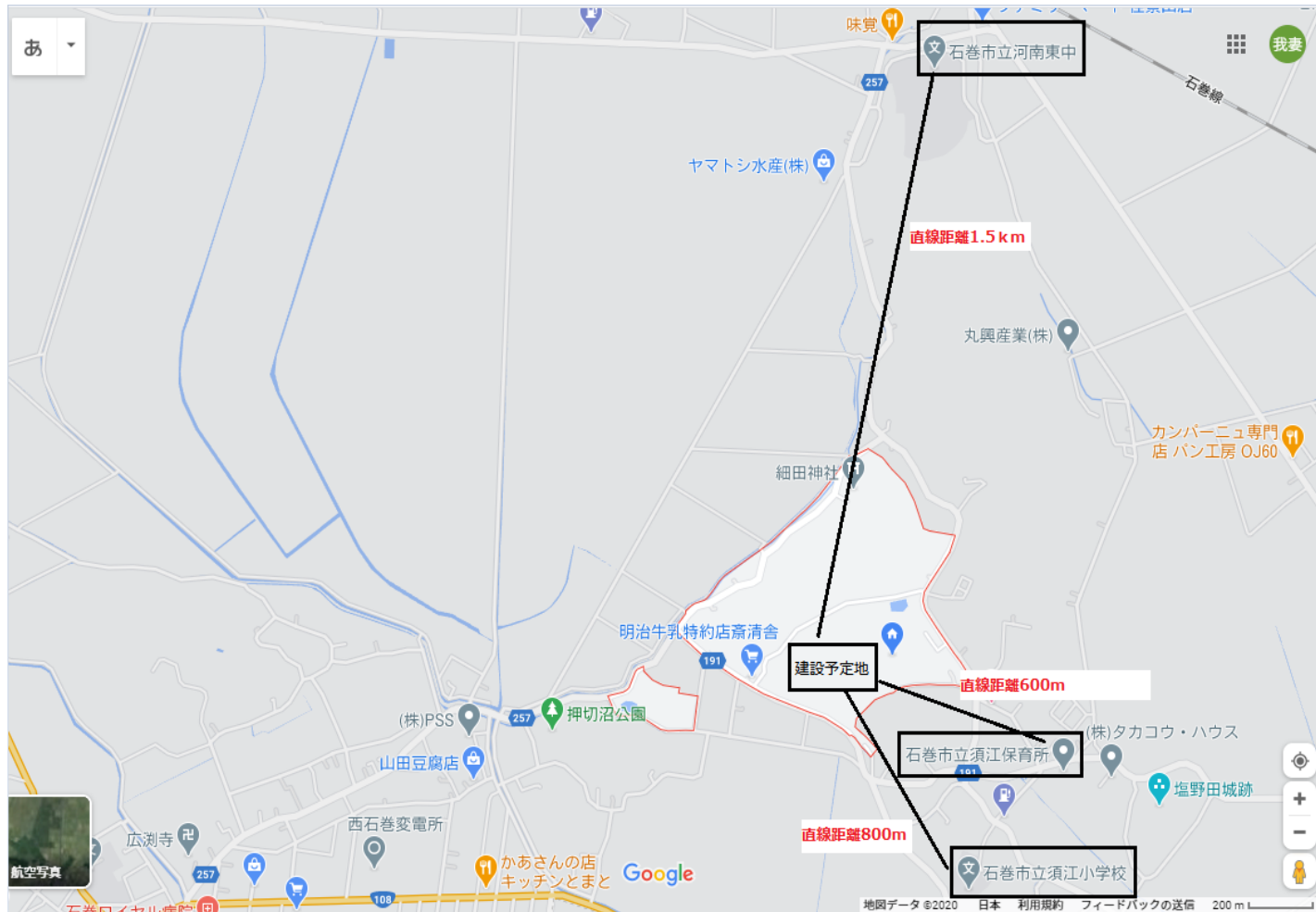


問題点2

小学校、中学校、保育所のすぐそばである

建設予定地の近隣に小学校、中学校、保育所があります。

直線距離600m、800mの須江保育所、須江小学校は社会科や生活科その他活動において、グラウンド活動や近隣での校外活動もさかんに行われており、大気汚染や臭いは子ども達に重大な影響を及ぼします。



問題点3

小・中学校の通学路を燃料運搬トレーラーが一日に33台も通る



想定される21t ISOタンクトレーラー
全長14m、車幅2.4m
燃料輸送量/日 約700トン
トレーラー/日 約33台

須江地区は小中学校が近く、どの道路も狭く、通学路になっています。また、採石場もあり常に工事車両が通っています。このような状況下、全長14mの燃料運搬トレーラーが33台も通ることは許されません。

事業者は、「走行時間を①9時～11時、②11時～13時、③13時～15時の3つの時間帯に区切り、それぞれ11台ずつ連なって走行する」と発表しました。

$14\text{m} + \text{車間距離}25\text{m}$ (40km/hの場合は $40 - 15 = 25\text{m}$) $\times 11\text{台} = 429\text{m}$

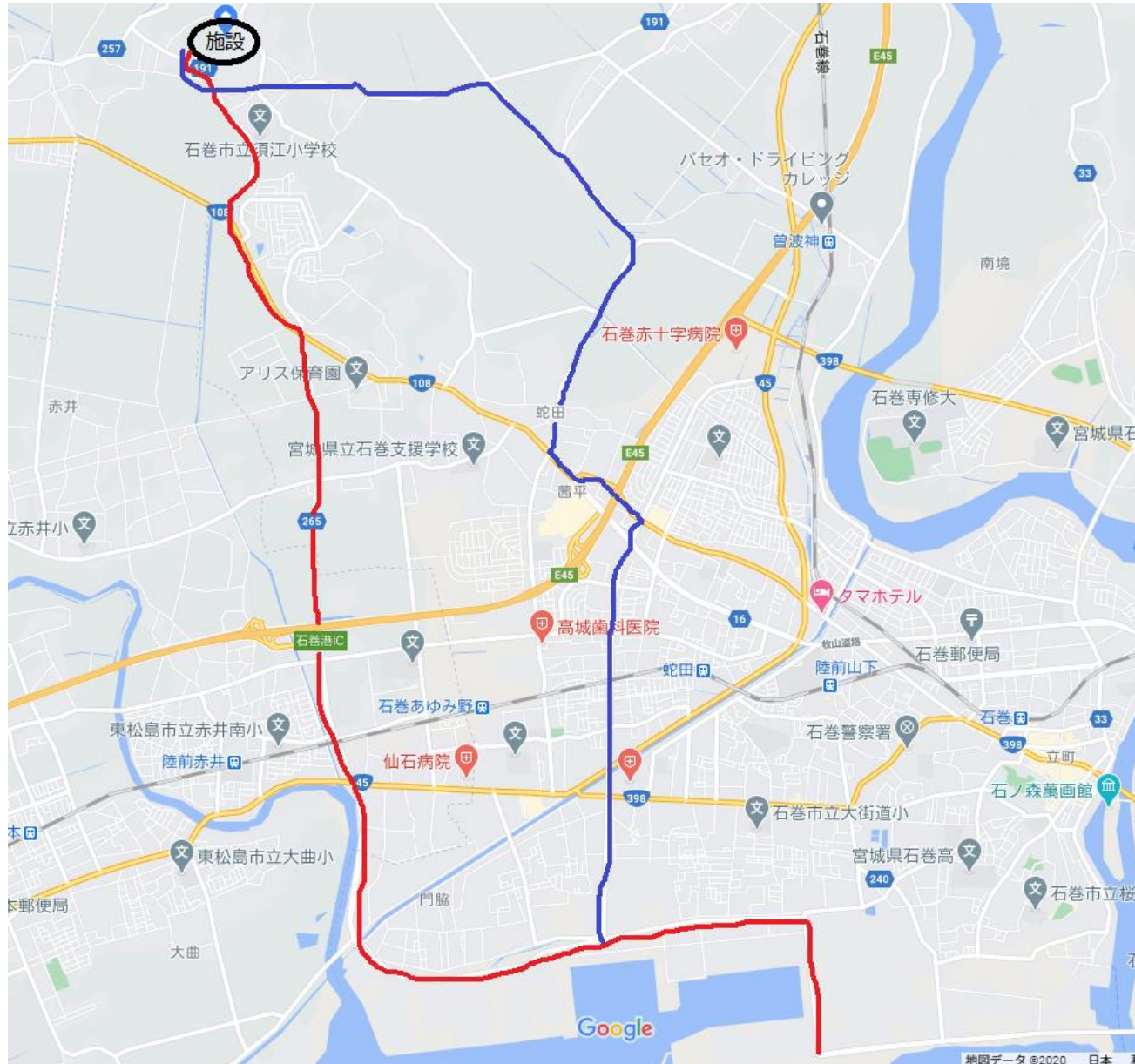
つまり、それぞれの時間帯に**直線距離約500mをトレーラーが占拠**することになります。

そのほかの工事車両、復興車両も通る中、考えられない事態です。

そもそも、石巻港～施設まで右左折が何度もある中、“連なって”走ることは無理です。事業者側の説明にもその場しのぎの感がぬぐえません。



石巻港からの燃料運搬ルートは、蛇田地区を縦断します。 市街地を全長14mの21 t コンテナトレーラーが毎日33台通過します。



赤：往路（燃料積載）

石巻港～45号線～265号線～河南中央公園前を通り、しらすぎ台入り口交差点を左折～108号線を須江小学校方面に右折～須江小学校前を通り～191号線三叉路を左折して施設入り口へ

※須江地区の細い道路を通ります。

青：復路

191号線三叉路を直進～191号線の信号なし歩道なし四方向全面一時停止の交差点を直進～右折して広域農道～108号線で蛇田～マクドナルド・ユニクロの交差点を右折～二番谷地中天東道下線（ホテルルートイン、100均セリア、お好み焼きとん堀前の道路）を直進～中浦橋～阿部勝自動車前通過～石巻港

※須江地区の細い道路を通り、広域農道から蛇田地区へ抜けます。

内陸地に火力発電所を建設することは、港からの燃料運搬トレーラーのルート確保が非常に難しいという問題があります。また、発電量が日本一の施設のため、施設自体も巨大であり、一日に運搬する燃料量も国内最大量となります。

住民の生活道路、狭い通学路、市街地を通ることは重大な事故が起こる可能性が極めて高いです。

建設地そのものの見直しが絶対が必要です。

須江地区通学路
(運搬トレーラーの予定ルート) の現状



往路復路共通ルート

見通しが悪い農道が多い



復路ルート

歩道がない通学路が多い

小学生・中学生の通学路が運搬ルートになっています。
21tコンテナトレーラーが33台も通れるような道路ではありません。



須江地区通学路の現状

往路復路共通ルート

往路復路共通ルート



往路復路共通ルート



特にこの変則的な三叉路は信号も歩道もなく、見通しも悪い上に通学路であり、工事車両がひっきりなしに通ります。数週間前には、中学生と車の接触事故もありました。この三叉路も燃料トレーラーの運搬ルートに入っています。四方向から車が通ります。

須江地区通学路の現状

往路復路共通ルート



次から次へと工事車両が続きます

この道路に5分も立っていればわかりますが、工事車両、復興車両の往来がすさまじいです。

道路幅も狭く、今も**ダンプと普通車がすれ違えない**状況です。
すでにほとんどのダンプが**センターラインをはみ出して**走行しています。

往路復路共通ルート



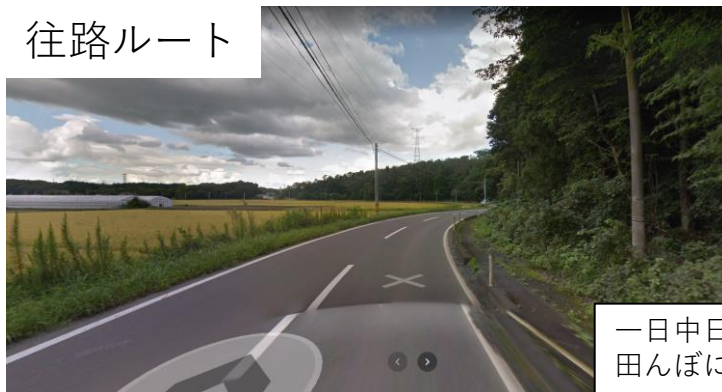
小学生の通学路でもあります

往路ルート

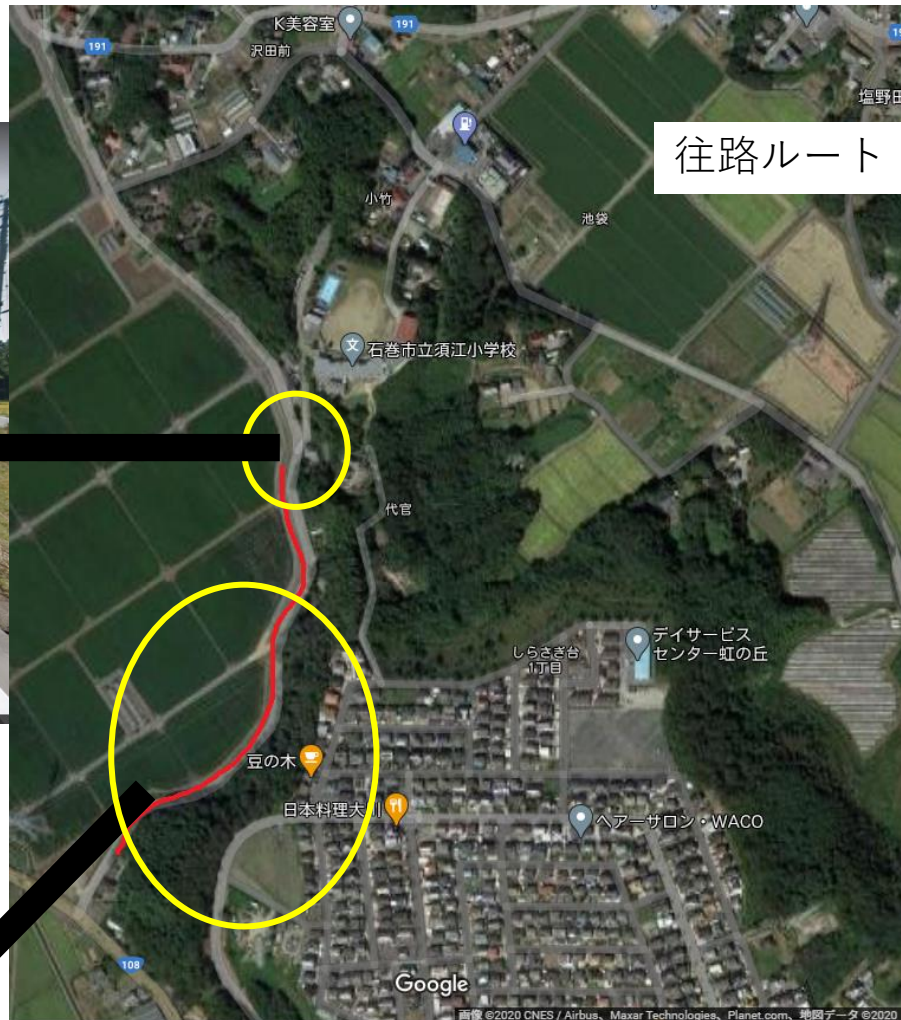


建設予定地が小中学校の真ん中に位置していることから、**建設予定地周辺道路は、ほぼすべて通学路指定**になっています。
農道も多く、歩道もない現状です。復興関連車両、その他工事車両がバンバン通る状況で、さらに燃料の運搬トレーラーが一日33台も往復するというのは、到底許すことはできません。

往路ルート



往路ルート



須江小学校前の108号への道路は、田んぼ反対側の森林の影になっており、見通しが悪い上に**毎冬に必ずスリップ事故が起こる場所**です。冬は凍結しやすく、森林の影になり溶けにくく、晴れていても夕方まで凍っている道路です。

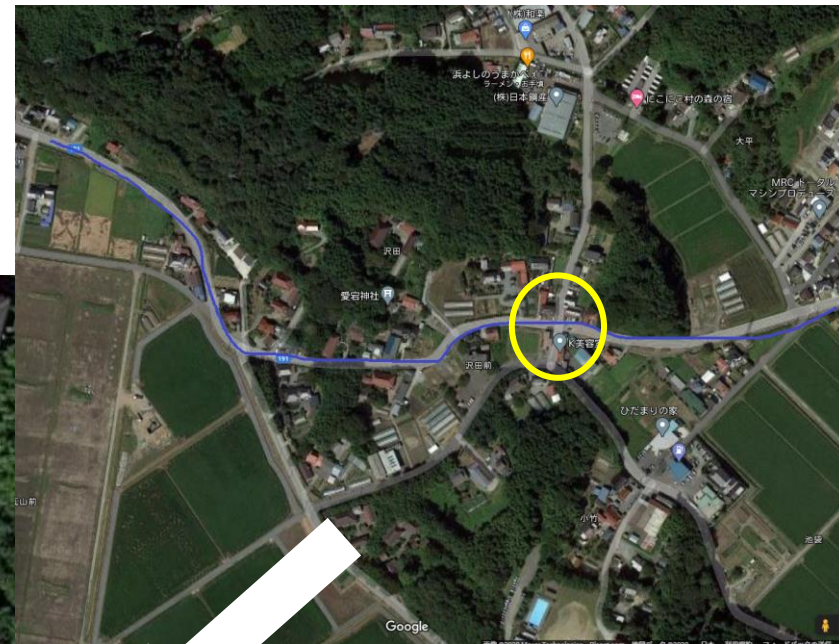
道路幅

①②6.6cm (片側3.3cm) ③4.7cm ④5.2cm

※燃料運搬トレーラー想定車幅2.5cm 全長14m (普通車3台分)

交差点は全面一時停止道路であり、横断歩道のない通学路です。

4つ角に民家が面しており、通常でも接触事故が多く、非常に危険です。



復路の重大事故懸念場所

5分立っていればわかりますが、どの方向からもダンプ、トレーラーが通ります。とうぜん、直進だけではなく右左折もします。信号もない、歩道もない、横断歩道もない、4方向一時停止有りの小中学生の通学路です。すべての車が通り終わるまでは、怖くて渡らせることができません。ここを、全長14mもある21tトレーラーが33台通るなど、考えるだけで恐ろしいです。

この茶色のお宅のリビングに車が突っ込んできたことがあります。



きなりくんちの前の交差

問題点4

住宅地に200ppm/h (トラック4万台/時) の窒素酸化物 (Nox) を排出する

環境基準値は950ppmであり、事業者の予測数値は200ppmです。しかし、200ppmとは1日にトラックが約100万台通過する際に排気される窒素酸化物と同じ量です。自宅の前を、明日から突然、100万台のトラックが通過すると考えたら、賛成できる人はいるでしょうか？

また、施設で使用するディーゼルエンジンで窒素酸化物を急激に下げるためには尿疎水を使用します。尿素水とはアンモニアです。つまり、尿です。燃料とともに燃やすアンモニアの臭いは、煙突から排出され、須江地区に広がります。

窒素酸化物の低減のために使用される尿素水については、毒性の強いアンモニアガスを発生させます。アンモニアガスの排出量については事業者側から提示されていません。

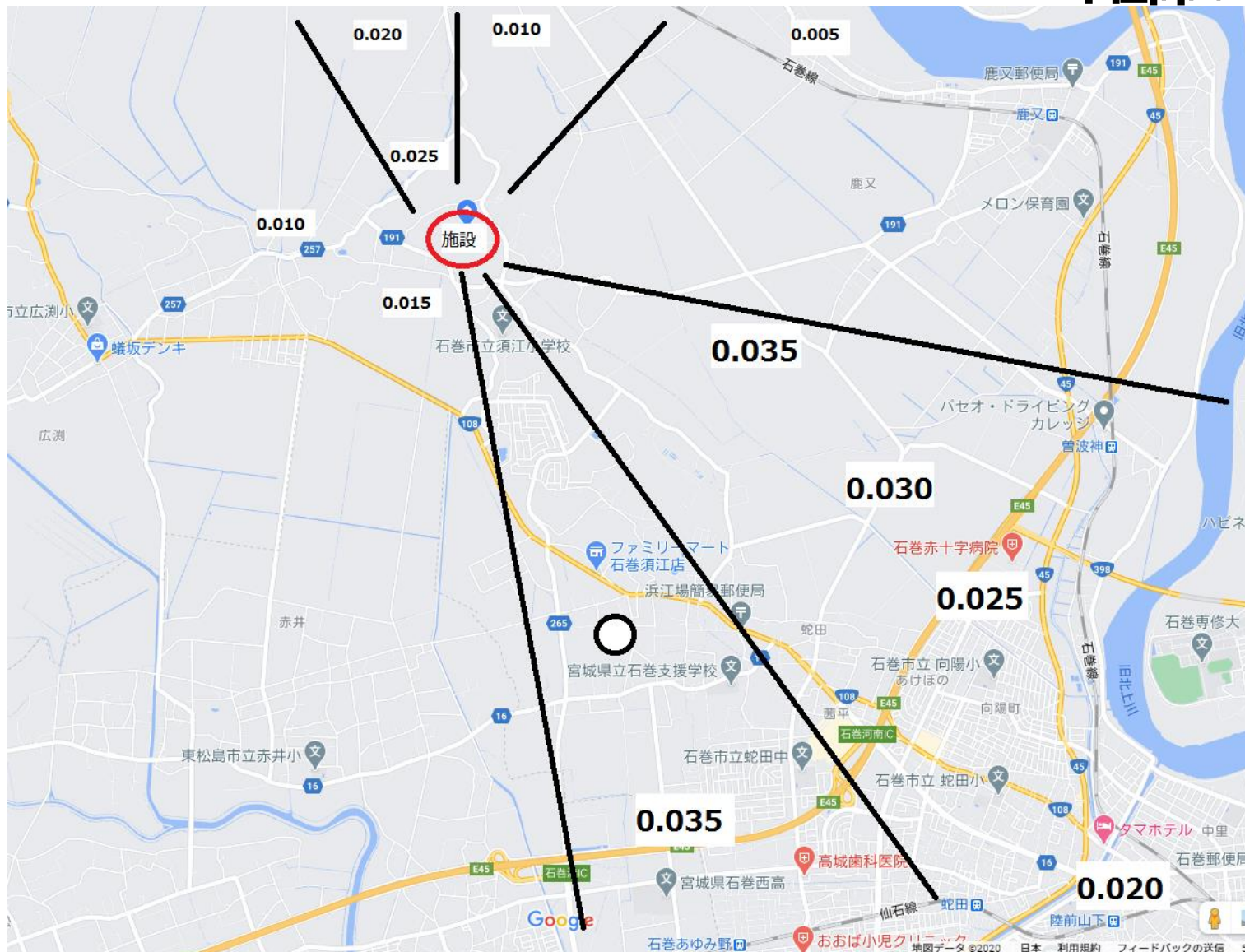
天然記念物のホタルが生存するような須江地区の環境が、100万台相当のトラック同等の窒素酸化物とアンモニアの臭い、油の臭いで汚染されることは、断固として反対いたします。



1時間にトラック約4万台、24時間だと約100万台が40 km/hで走行する排気量と一緒です。毎日100万台のトラックが須江を365日走り続ける状態が20年以上続くことになります。

問題点6

二酸化硫黄の施設による寄与濃度は、須江地区より蛇田地区に広がる 単位ppb



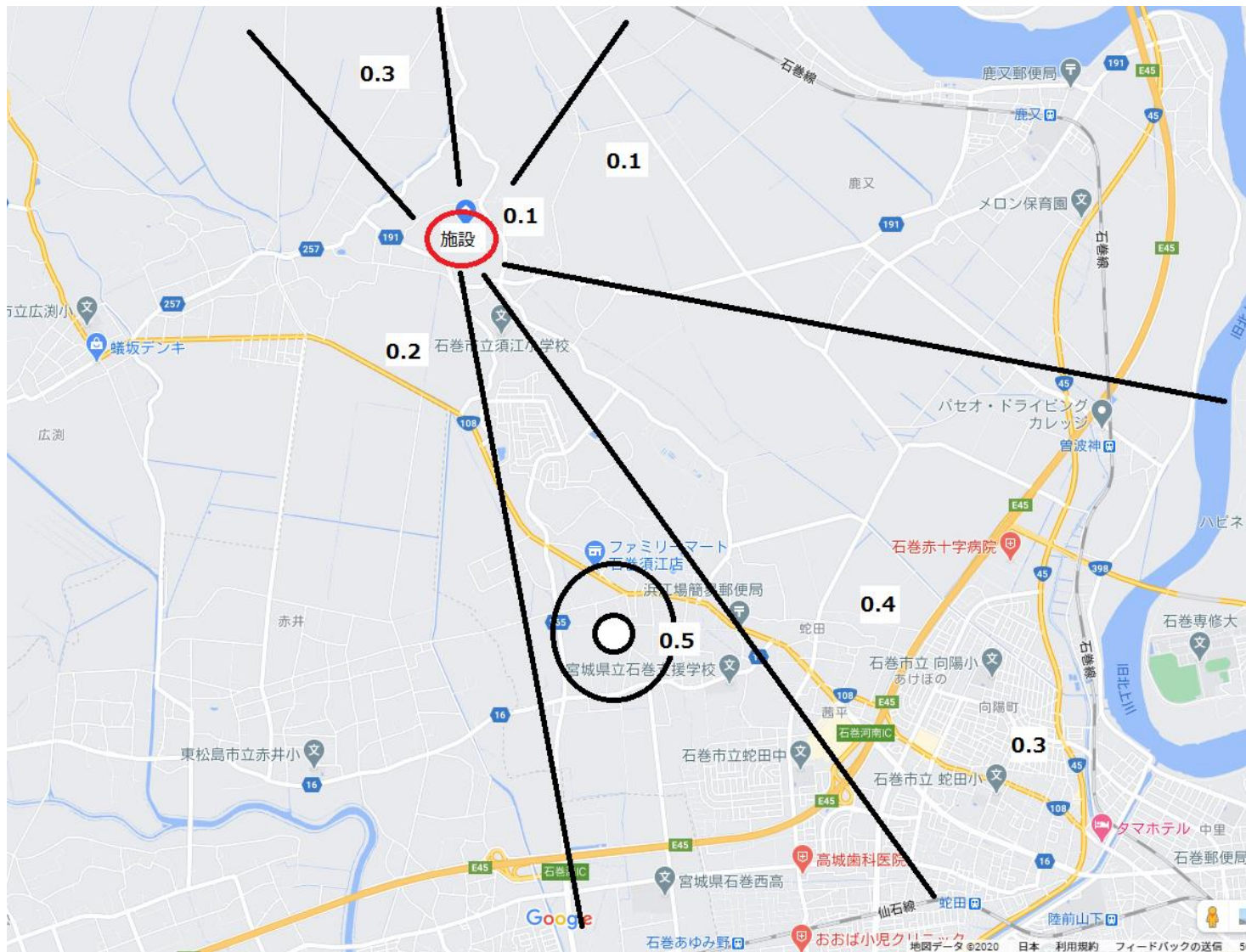
硫黄酸化物の中に含まれている二酸化硫黄 (SO₂) の寄与濃度は、施設から離れた蛇田地区において最も高く、0.035となっています。

なお、○は最大着地濃度地点となっており、支援学校の近くです。

※図は事業者提示資料のまま、ずらさずに作成しています。

問題点7

ばいじん（浮遊粒子状物質SPM）の寄与濃度予測が、広範囲にわたり環境基準値を大きく上回る $\mu\text{g}/\text{m}^3$



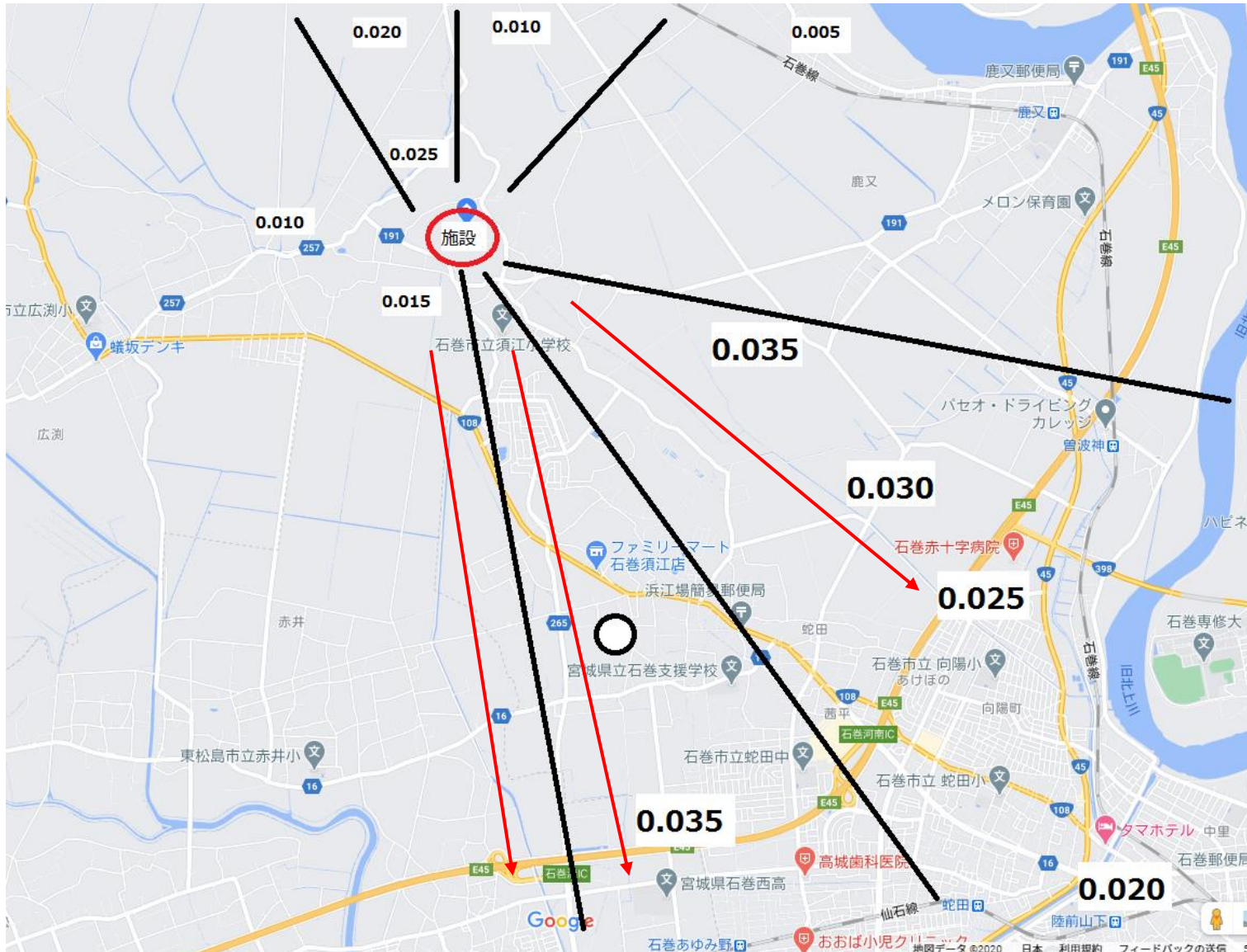
浮遊粒子状物質（SPM）の施設による寄与濃度は、最大0.5です。なお、○は最大着地濃度地点となっており、支援学校の近くです。

SPMだけでなく、窒素酸化物などは、呼吸器疾患を引き起こすと言われています。支援学校では、持病で呼吸器疾患を患っている生徒が多く、重大な病状悪化などにつながるおそれがあります。

内陸地に建設することで、風向きによる大きな影響が市街地全土を覆うことになり、学校はもとより、石巻市民の健康被害を引き起こす懸念があります。

※図は事業者提示資料のまま、ずらさずに作成しています。

しらさぎ台、須江小学校が排気ガスの影響を強く受けることが示されている



あくまでも事業者側の予測です。

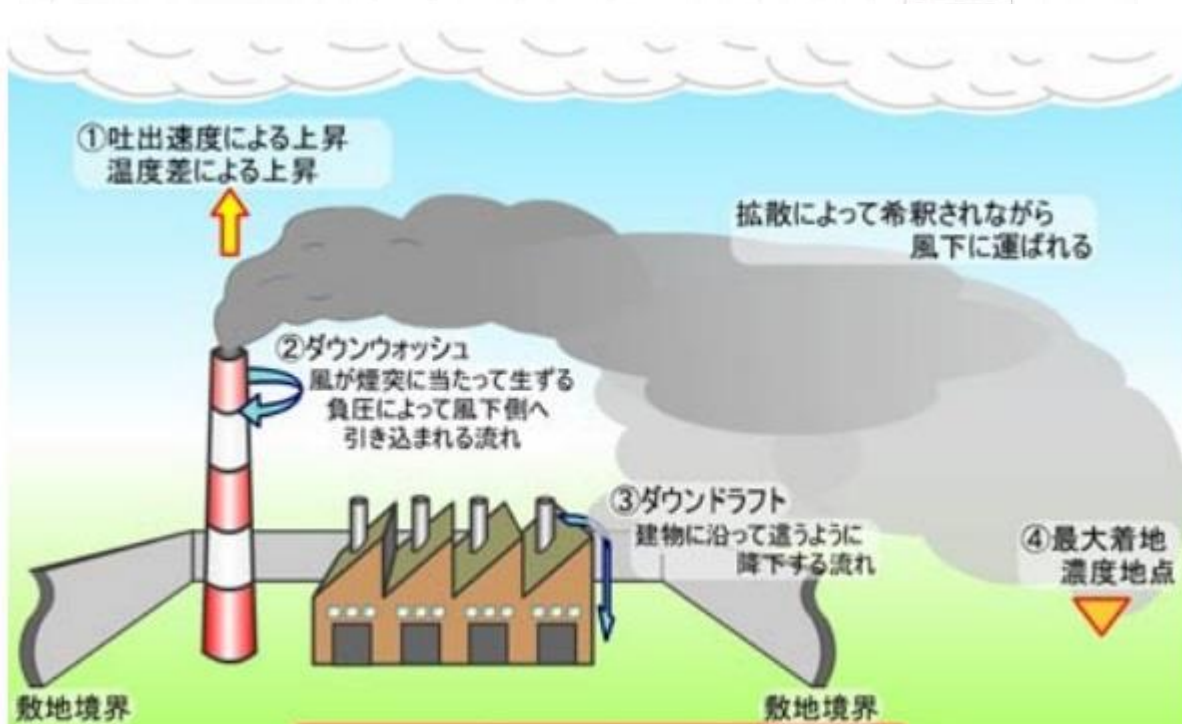
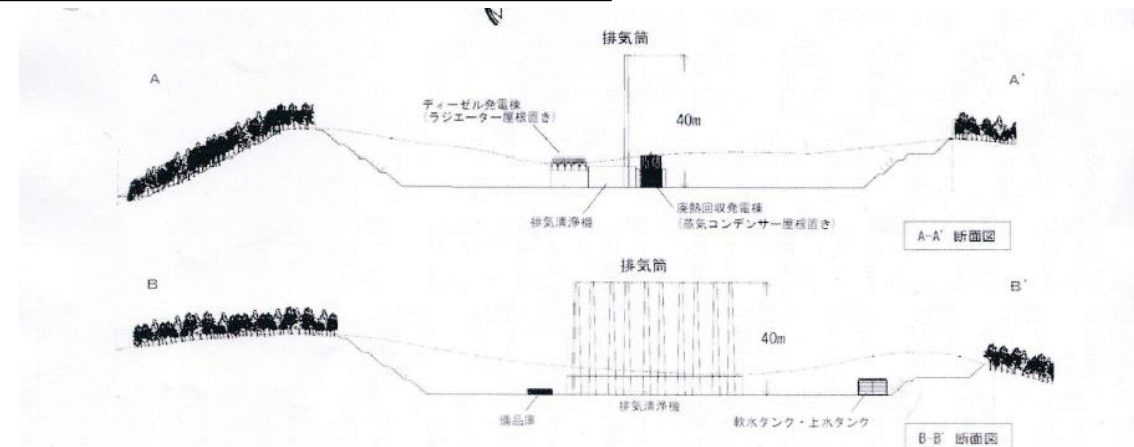
風向きによっていくらかでも影響値は変わってきます。

宮城県内で石巻市がもっとも数値が高いとされているPM2.5については、事業者側より資料が提示されていません。

※図は事業者提示資料のまま、ずらさずに作成しています。

ダウンウォッシュ・ダウンドラフトについて

風が強くなり、排出ガスの吐出速度が小さい場合、排出口風下側に形成される流れの乱れた領域に巻き込まれ、煙突や建物の周囲に渦が発生し、この渦に煙が巻き込まれると、煙は休息に降下して、地表でも著しい高濃度汚染が生じることがある。



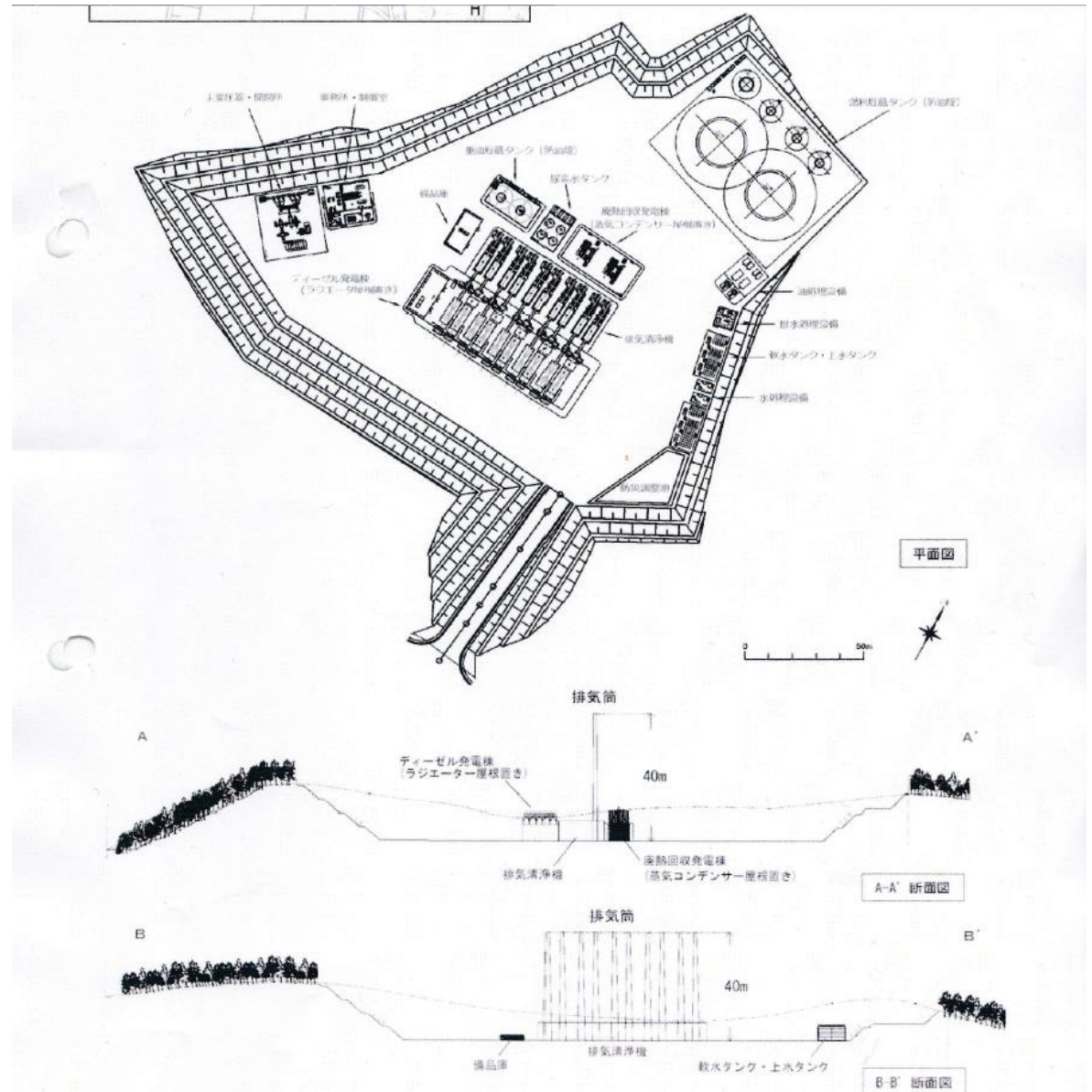
須江地区の瓦山という地域は、その地形から、広がった田んぼ側から吹く風が非常に強いので、気象庁の計測にはあがらない風速が出ていると思います。
 山の上に立つ施設に風速はどう影響するのか？
 施設ふもとの住宅に、予測値の見えない重大な影響が隠れている。

施設図

周りを森林で囲むことで、さまざまな汚染の「低減を図る」と事業者の説明ではあるが、森林に囲まれているがゆえに、ダウンドラフトが ocorrência やすくなり、ふもとと住宅地への影響が懸念される。

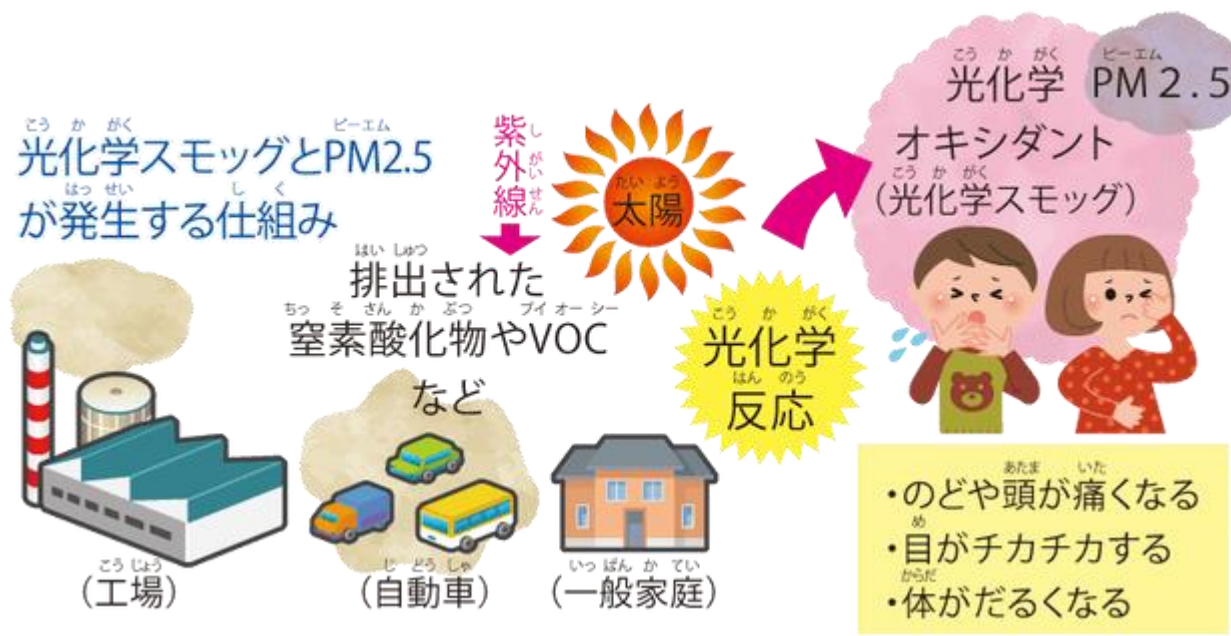
また、側面図からわかるように、広く掘削をし、くぼんだ部分に工場を建設するため、煙突の高さの40mが20m程度になってしまうことも、ダウンドラフトを起こりやすくしているのではないか。

また、煙突高さ40mは、しらさぎ台の地上高さと同じ程度であるため、無風でも流れる排気ガスがしらさぎ台全体を襲う懸念はぬぐいきれない。



主な大気汚染物質

窒素酸化物 (NO _x)	窒素酸化物の中でも毒性の高いのが二酸化窒素。肺深くの細胞に入りこみ、呼吸器系炎症を引き起こす。酸性雨や光化学オキシダントの原因物質でもある。
浮遊粒子状物質 (SPM)	大気中に長時間滞留し、肺や気管などに沈着して呼吸器官に影響を及ぼす。また、花粉に付着して花粉症の症状を悪化させる要因でもある。
硫黄酸化物 (SO ₂)	粘膜や呼吸器を刺激し、慢性気管支炎などの呼吸器系疾患を引き起こす。有名な例として、四日市ぜんそくがある。酸性雨の原因物質にもなる。
光化学オキシダント (O _x)	粘膜を刺激して、のどが痛い・目がチカチカするなどの症状がでるほか、頭痛や吐き気も引き起こす。農作物や植物にも変色などの影響を及ぼす。
微小粒子状物質 (PM _{2.5})	SPMより小さい粒子で、長く大気中を浮遊している。吸い込んでしまうと細い気管支や肺の奥まで入りこむ。ぜんそく、気管支炎、呼吸器系の病気のリスクを高める。血液中に混入する、不整脈や循環器への影響もあり心疾患による死亡リスクが増大する。



土地の価格が大幅に下落します。 それどころか、買い手が一切つかなくなります。

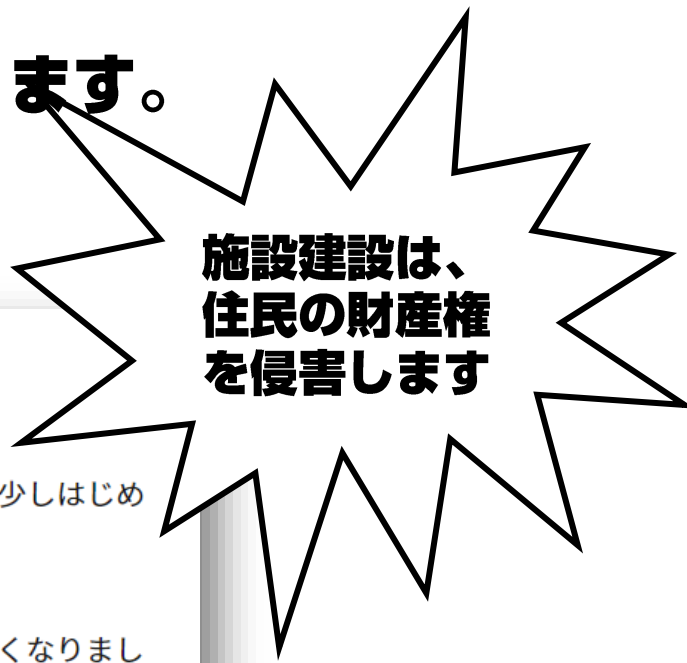
舞鶴市の事例

安くしても土地と建物が売れない・・・

建設計画が知れ渡った2019年から福井小学校区の住宅用不動産の取引が大幅に減少しはじめ
2010年～2015年までの住宅用の土地建物の取引はゼロ
かろうじて商業用土地の売買はありますが取引価格は45%減少となっています。
※2019年時点でパーム油火力発電所建設を理由に契約直前の住宅用土地取引が無くなりました。

実際におこる可能性「★★★★★」

解説：行政が決める路線価の下落はありませんので税制上の優遇とはありません。
税制上は高い土地のまま実際の資産価値が無くなります。



施設建設は、
住民の財産権
を侵害します

新たに住む人がいなくなり、小学校、中学校、保育所の人数が明らかに減少していきます。
子どもがいない地区はどんどん過疎化がすすんでいきます。

須江地区の火力発電施設建設は 石巻市が推進するSDGsと 逆行する側面があります



- 3.6 2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。
 →交通環境の悪化による重大な交通事故の危機に面しています。
 内陸地に建設することで、燃料運搬トレーラー問題が浮上しています。
 また、建設地のすぐそばに小中学校、保育所があり、どの道路も通学路となっています。
- 3.9 2030年までに、有害化学物質、ならびに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。
 →再生可能エネルギーを使用したバイオマス発電はカーボンニュートラルですが、
 内陸地に建設することで、市街地全土を排気ガスで覆うことになります。
 小中学校、保育所への影響は計り知れず、建設地を見直し、本当の意味でのカーボンニュートラルを実現すべきです。



- 11.6 2030年までに、大気の水質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。
 →住宅地のご真ん中に建設することにより、周辺地域だけではなく、風の影響を強く受けた排気ガスが市街地へ飛ぶこととなります。建設予定地の土地が安く購入できたという理由での建設はあまりにも軽率です。周辺地域の明らかな環境悪化が目に見えています。

須江地区の火力発電所は『市民意識調査集計結果報告書』 内にある 市民意識に反する事業計画です

〔関心のある環境問題について〕

問 13 あなたが関心のある環境問題を選んでください。（複数回答可）

No.	項 目	回答数	構成比
1	<u>地球温暖化</u>	<u>753 名</u>	<u>67.5 %</u>
2	オゾン層の破壊	240 名	21.5 %
3	<u>大気汚染</u>	<u>291 名</u>	<u>26.1 %</u>
4	川や海の水の汚れ	454 名	40.7 %
5	ごみの減量、リサイクル	444 名	39.8 %
6	ごみの不法投棄	435 名	39.0 %
7	<u>悪 臭</u>	<u>173 名</u>	<u>15.5 %</u>
8	<u>騒音、振動</u>	<u>167 名</u>	<u>15.0 %</u>
9	土壌汚染	91 名	8.2 %
10	エネルギー問題	299 名	26.8 %
11	<u>ダイオキシンなど有害な化学物質による環境汚染</u>	<u>133 名</u>	<u>11.9 %</u>
12	生活の中にある身近な自然の減少	192 名	17.2 %
13	野生生物や希少な動植物の減少	123 名	11.0 %
14	その他	54 名	4.8 %
	無記入	29 名	2.6 %

令和元年度の「市民意識調査集計結果報告書」から抜粋しました。

構成比が高い地球温暖化、大気汚染は今回の火力発電施設の問題と直結しています。

先に述べました通り、有害物質は風によって須江地区だけにとどまらず、風にのるからこそ、蛇田地区に数値的に大きな影響を及ぼします。

3 石巻市の環境について

問 13 あなたが関心のある環境問題を選んでください。

- プラスチックごみの増加。(複数)
- 原発の放射能汚染。(複数)
- ゴミ収集所の整備。
- 太陽光発電の設置が増え、景観が損なわれている。
- 特に深夜営業のコンビニなどの無駄なエネルギーの消費。
- 野生生物(シカ等)の増え過ぎによる被害。(複数)
- 野良猫、野良犬の対策。(餌付けやフンの処理など。)(複数)
- ゴミの分別。(複数)
- 新北上川側の山で採石が盛んに行われているが、山崩れや土砂崩が心配。
- 海のプラスチックごみ問題。
- 空き地の雑草。
- 地盤沈下。
- 外来種生物の増殖。
- 他の町からいらっしゃるお客様から、石巻は変なにおいがするとされます。
- 捨てネコ、捨て犬の保護問題。
- 農・漁・林等資源。
- 太陽光発電の安易な建設による生態、自然破壊。
- ごみ屋敷から発生するハエや害虫、悪臭。また、工場からの悪臭に対しては徹底した衛生指導をしてほしい。
- コペンハーゲンで感心したこと。道路の一角、橋の袂などに蓋付の『ゴミ箱』が設置されていた。川岸の道路、早朝にジョギングする人、ヨットの手入れ。荷物の揚げ下ろしなど賑やかなのに、周りは清潔感にあふれていた。石巻の川岸もこのようにあってほしい。

山崩れ、崖崩れに関しては、須江地区に大きな採石場もあり、さらに日本最大級の火力発電所ができることで、微細振動によって少しずつ起こる山や地盤への影響から大雨などによって一気に土砂崩れが起こることが懸念されます。

アフリカから毎日燃料が運ばれてくる石巻港、そして須江地区へコンテナが運ばれることで外来種生物のさらなる増殖は大きな懸念です。

もともと港町ですので臭いに関しては変な臭いがしますが、輪をかけて油・アンモニアの臭いが加わると、市全体の悪影響になります。

工場からの悪臭に関して、すでに衛生指導ができていない点が自由記述欄からも見えるということは、もっと多くの市民が感じている点です。日本一の火力発電所が加われば住民からの害虫、悪臭への声はさらに高まります。

『令和2年度施政方針における重点施策に位置づける事業』 に大きな悪影響を及ぼします

の事業内容	のノウハウの習得や有益な情報の収集を行い、積極的に意見を交わしながら本市の移住対策を強化する。 さらに、東京23区の在住者や通勤者が本市に移住し、就業及び起業をされた方を対象に移住支援金の支給を実施する。		
事業名等	地域おこし協力隊設置事業		
担当課	復興政策部地域振興課	摘要	継続
令和2年度の事業内容	「地域おこし協力隊」を設置し、地域外の人材を積極的に受け入れて、地域活動を行い、定住・定着を図るため、現隊員の活動を支援しながら、新たな隊員の募集を行う。		
事業名等	石巻版松下村塾事業		
担当課	復興政策部地域振興課	摘要	継続
令和2年度の事業内容	起業における基礎的知識のほか、事業構想や経営理念等を学ぶ機会の提供を実施する。具体的には、事業の立ち上げに必要なブランドイメージづくりのノウハウや資金繰りに必要な事業計画の作成方法等、講師による基礎的な知識のレクチャーと併せて、個別相談等を行い事業の立ち上げに伴走支援する。		
事業名等	河南地区小規模宅地開発対策事業		
担当課	建設部道路第1課	摘要	継続
令和2年度の事業内容	民間事業者による小規模宅地開発地に隣接する未整備の市道、水路等の改修を行い、住環境の改善と居住者の利便性の向上を図り、本市への定住を促進する。		

河南地区小規模宅地開発対策事業における住環境の改善において、完全に逆行する火力発電所の建設計画です。

燃料運搬トレーラーによって交通の利便性は損なわれ、悪臭・大気汚染・振動・騒音によって定住促進を勧められるような環境ではなくなります。

石巻市民憲章

太陽の恵みを受け、太平洋と北上川に育（はぐく）まれた
「日（ひ）高見（たかみ）の国（くに）」。

わたしたちは、この美しい郷土を愛し、笑顔あふれる希望のまちをつくり伝えるため、ここに市民憲章を定めます。

まもりたいものがある
それは 生命（いのち）のいとなみ
豊かな自然

つたえたいものがある
それは 先人の知恵
郷土の誇り

たいせつにしたいものがある
それは 人の絆（きずな）
感謝のこころ

わたしたちは 石巻で生きてゆく
共につくろう 輝く未来

須江地区住民から猛反対を受けている日本最大級の火力発電所の建設は、天然記念物のホタルが舞うほど豊かな自然とキレイな空気の須江地区の郷土を汚染し、騒音、振動、交通障害によって住民の笑顔は失われます。

住環境悪化につながる住宅地・学校のすぐそばでの建設は断固として反対いたします。